

施設管理番号	N	*	*	*	C	0	0	1	部分記号	
--------	---	---	---	---	---	---	---	---	------	--

表ー5. 3. 3 安定度調査表 (地すべり)

点 検 者	防 災 太 郎
所 属 機 関	〇〇〇株式会社

[要因](A)		着 眼 点		配 点	
項目	地すべり地	着 眼 点	配 点	項目	地すべり地
地すべり地	地すべり地	滑り崖、丘状地形、緩傾斜地、等高線の乱れ、河川などへの押し出し等の地すべり地形が認められる。	明 瞭 やや明瞭 不明瞭	(30) 15 7	(30) 30 (30)
	地質	断層・破砕帯 火山変質帯、温泉余土 流れ盤 受け盤 貫入岩構造、キャップロック構造 その他	※ (30) 18 8 14 (7) 3 0	18 (30) (7) (7) (7) (7) (7)	7 (7) (7) (7) (7) (7)
地質	母岩	中・古生層(結晶片岩、堆積岩) 第三紀層(堆積岩) 第四紀層(未固結堆積物または堆積岩) その他(火山岩、火成岩等)	7 (7) 3 0	7 (7) (7) (7)	7 (7) (7) (7)
	湧水	あり(痕跡程度も含む) なし	10 (10)	10 (10)	0 (10)
合 計 (最大65)			(A)	44	44 点

注) () は各項目の満点を示す。

*ただし、複数の着眼点を選択された場合は、高配点のものを採りし、点数を記入する。
該当する箇所には複数の場合でも配点欄に○印をつける。

(C)=MAX(A,B)

要因からの評点	(A)	44	点
履歴からの評点	(B)	75	点
(A)と(B)の内、大きい方	(C)=MAX(A,B)	75	点

[対策工](D)=(C)+αまたは(C)×0

既設対策工の効果の程度	点数(α)	判 定
対策工が無い、効果が低い。	±0点	
一定の効果。	(-30点)	-30
高い。	×0	
合 計	(D)	45 点

[総合評価]

対 応	判 定
対策が必要と判断される。	
防災カルテを作成し対応する。	○
特に新たな対応を必要としない。	

※特に新たな対応を必要としない場合であっても、
年1～2回の巡視等を行う必要がある。

スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)

位置図 (縮尺1/25,000)



特記事項	被災履歴	有 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明:) (冊) (H8年度以降)
点検実施: H ** 年 ** 月 ** 日 天候: (晴)(曇)(雨)	重複点検対象項目	対応施設管理番号:
調査方法: 地表調査、目視点検	有・無	落石・崩壊・岩盤崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他
所見: 本線から約30m上流の谷止工(h=4.7m)は、満砂状態にある。現状では、谷止工の上部(評価理由)に高さ1.5mの鋼製スクリーンが設置されているが谷頭部での崩壊が顕著であるため、防災カルテを作成し定期的に点検することが望ましい。	平成18年度点検結果	評点 (77点) 総合評価: 対策が必要とされる。防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない。ノ対応。(完了・施工中・未着手)
	平成18年度点検結果	評点 (78点) 総合評価: 対策が必要と判断される。防災カルテを作成し対応する。特に新たな対応を必要としない
	予想災害規模	土石流による通行止
	想定対策工	工種: のり棒工 (崩壊地) その他:

表-5. 6. 2 箇所別記録表(盛土)記入例

管理機関名										〇〇 地方整備局																													
管理機関コード										〇〇 国道事務所																													
施設管理番号	N	*	*	*	F	0	0	1	点検対象項目	盛土	路線名	一般国道**号				距離標(自)	至	3	0	0	6	0	6	1	8	0	上	下	・	他	*	*	*	*	*	*	延長	150	m
事業区分	一般有料		道路種別		一般国道(指定区間)		所在地		〇〇郡〇〇町字**	現道・旧道路区分	現道	交通量	平日 1,200台/12h	休日 2,900台/12h	位置目印	D/D区間		該当(非該当)	該当(非該当)	バス路線	迂回路	有・無	緊急輸送道路区分		指定有・指定無														
事前通行規制区間指定	有(通行・特殊)		掘削基準等		掘削基準等		連続雨量 200mm		時間雨量 60mm	位置図(縮尺1/25,000)																													

スケッチ・現況写真(既設対策工、位置目印との位置関係が分かるもの)

平面図

断面図

特記事項

点検実施: H ** 年 ** 月 ** 日 天候: (晴・曇・雨)

調査方法: 地表踏査、目視点検

所見: 高さ25mに及ぶ盛土で、法枠やコンクリート擁壁等、新たな対策が施工されている。起点側に旧(評価理由)対策の法枠部分が見られ、この部分の補修を行うのが望ましい。継続的な点検を行う必要がある。

被災履歴	有 (1. 被災履歴記録表参照 2. 詳細不明:) (無 (H8年度以降)
重複点検対象項目	対応施設管理番号:
有・無	落石・崩壊・岩盤崩壊・地すべり・雪崩・土石流・盛土・擁壁・橋梁・地吹雪・その他
平成8年度点検結果	評点(77点)総合評価(対策が必要とされる)・防災カルテを作成し対応しない/対応(完了・施工中・未着手)
平成18年度点検結果	評点(30点)総合評価(対策が必要と判断される)・防災カルテを作成し対応する/特に新たな対応を必要としない
予想災害規模	のり肩崩壊の小崩壊500mm程度
想定対策工	工種: コンクリート 吹付工
その他:	